

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093300079
法人名	社会福祉法人 北筑前福祉会
事業所名	宗寿園グループホーム愛々
所在地	福岡県宗像市稲元5-2-2
自己評価作成日	平成24年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内にある福祉センター(同法人運営)の行事に月1~2回程度参加し地域の方達と交流を持ちながら楽しい時間を過ごしている。近隣には小、中学校もあり学校、地域の方達の協力を得ながら学校行事に参加する事により子供達との交流にも繋がっている。花あそび教室、お化粧品教室を外部の方を招き、それぞれ月1回開催し楽しませている。食を楽しむ為にメニューから考え買い物、食事作り、片付けまで、利用者の方達が出来る事を積極的に支援している。週3~4回の買い物に出掛け利用者の買い物、GHの買い物などをする事で外出する機会を増やし心身の活性化に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差しながら、多様な福祉サービスを展開する法人を母体に持ち、日頃から相互に密接な連携を図りながら、入居者本位の視点で、一人ひとりのニーズにそった支援を行っている事業所である。階下には、同一法人が運営するデイサービスセンターを始め、リハビリ機器各種、マッサージ機、ビリヤード台、足湯等が完備された交流ルームがある。また隣接する福祉センターでは、日常的に催し物や講座等が開催されており、入居者は希望に応じて参加出来る。これらは格好の個別支援、あるいは地域住民との交流の場となっている。入居者全員が女性ということもあって、管理者は「女性としての生き方の追及」を支援の柱に掲げ、外部講師を招いての花遊び教室、お化粧品教室の開催や、家事を始めとする生活歴を活かした暮らしの中での役割の継続に努めている。職員は、自らの仕事を「介護って楽しい」と評し、本事業所を「その人らしい生活が出来る場所」と位置付ける。これは、幅広い内容の研修実施を始め、法人の全職員が参加するフリースタッフでの忌憚のない意見交換や、他事業所との交流が盛んで連携が図られていること等に起因している。福祉センターでは、母体法人主催のケアスクールが開催され、地域住民を含め、外部からの参加者が多く見られる。次代の福祉の担い手が育成されており、本事業所へ職員として配属されたり、ボランティアとして訪れる者もいる。ここに、自己完結せず、絶えず外部からの風を入れながら、循環する仕組みの確立を見ることが出来る。これを運営に活かし、結果として、人材育成を行いながら、入居者一人ひとりのニーズに即した質の高い支援につなげている。今後、益々の展開が期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年12月22日	評価結果確定日	平成25年3月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○経営理念である「共生」を基本とし「素敵な笑顔で和気愛々」を運営方針に掲げている。	法人創立時作成された理念に加え、事業所設立時に職員間で特色を話し合い、独自の運営方針を作り上げている。その内容は、具体的で、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっている。仕事の内容を考え直したり、職員間で意見の相違がある時等、その都度、理念を振り返り、職員間で共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○近隣の店への買物を行っている。 ○隣接する老人福祉センターを利用する事により地域住民と接する事が出来る。 ○地域の行事見学(運動会等)	隣接する福祉センターでは、日常的に様々な行事が実施されており、入居者の要望を踏まえ利用し、地域住民との交流を行っている。また地域の小中学校に交流をはたらきかけたり、市のボランティアセンターに登録し、催し等を企画する等、積極的に地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○地域住民に向けた認知症の勉強会やグループホームとは？又他の施設はどんな施設(施設の紹介)等の情報を提供している。 ○他事業所(施設)見学会の実施		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○推進委員さんよりの助言、地域の子供達との関わりの橋渡し(民生委員、自治会長さんの協力)	自治会長、民生・児童委員、地域包括支援センター係長、家族代表等の参加で、2ヶ月に1回実施。入居者の現状や、運営状況、行事等について報告している。メンバーは非常に熱心で、忌憚のない意見交換がなされている。実際に、運営推進会議での話し合いを契機として、地域の学校とつながる等の成果も上がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○運営推進会議、地域密着会議を利用しながら協力関係を築いている。	訪問や電話で、密に報告・相談を行うとともに、FAXを活用して、制度等について質疑応答を行う等、日頃から、「顔の見える良好な関係」の構築に努めていることがうかがえる。また同業者と連携して、市に提案を行い、市も積極的に応じる等、相互に、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○研修会等に参加し意識を高め、日頃より話し合いをし、職員間の連携を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	母体法人設置の委員会作成のマニュアルに準じ、職員は、身体拘束の対象となる具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。実際に身体拘束はしていない。また外部研修への参加、及び伝達研修の実施により、職員間でより一層の周知を図っている。	

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○支援のなかで、気付いた事があれば、その場で話し合うようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○研修会、講習会に参加し知識を深めるなどの取り組みを行い、必要とする方には、すぐに対応出来るように支援体制をとっている。	現在、制度利用者はいないが、契約時に説明を行い、制度の周知に努めている。パンフレットの完備や、外部研修、及び内部(伝達)研修の実施についても確認出来た。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○見学、電話での問い合わせが気軽に出来るように窓口を設けている。利用者、家族等が不安や疑問に思う点については、十分な説明を行ない理解、納得を得た上で契約に及んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○運営推進会議を年6回開催し家族に参加して頂き意見、要望などを伺っている又は、家族会を年2回開催し懇親会を兼ねて意見の交換会もされている。頂いた要望、意見には迅速に対応している。玄関に意見箱を設置している。	家族会を年に2回実施し、事業計画や運営状況等の報告を行っている。家族の大半が参加し、忌憚のない活発な意見交換がなされている。併せて、食事会やバスハイク等を実施し、入居者、家族、職員間の相互理解に積極的に働きかけている。また面会時や、随時の手紙等で、コミュニケーションを図りながら、意見の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○毎月のミーティングや年1,2回のフリートーキング等を実施し意見を述べる機会を設けている。常勤、非常勤一緒に月担当を決め行事等の企画にアイデアを出し合い全職員になげかけている。	代表者・管理者は、法人職員の大半が参加するフリートーキングの実施を始め、日頃から、職員間のコミュニケーションや意見交換の活性化、及び業務提案が出来やすい雰囲気作りに努めている。実際に、業務に対する職員提案の却下はほとんどなく、その為、特に行事等では、職員の意見、アイデアが遺憾なく発揮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○年2回自己評価の場が設けられており各自、目標を掲げ、一人ひとりが向上心を持って働けるようにつとめている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	○平等な人選が行われており、差別等はない。採用された職員は本人の持つ能力、特技等を発揮出来る場をもち活躍してもらっている。資格取得、研修等に積極的に取り組んでもらい質の向上にも力をいれている。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除されることはない。採用後も、充実した研修の実施や、資格の奨励(資格によっては費用の半分を法人が負担)等、職員の意欲に応える仕組みが確立されている。また休日も取りやすく、各人の自己実現、社会参加、余暇の充実の機会も保障されている。	

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	○法人の基本理念に「人権を尊重し、人としての尊厳の確保」を掲げており、ご本人の人権を尊重し尊敬の念を持って接している。職員に対しても人権教育や研修に参加してもらう事に積極的に取り組んでいる。	理念に謳うとともに、内外の研修や日常業務を通して、人権教育、及び啓発に努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○随時、研修や講演会の情報を掲示、回覧し、法人内外の研修を受ける機会が設けられている。 ○資格取得に対する援助がある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○2か月に一度「地域密着型サービス事業所連絡会」に参加しており、連携をとる機会となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○管理者、ケアマネージャーが主となり、それまでの本人の生活背景を考えながら、本人の意思を尊重し話しをするようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○家族からは、十分に話しを聞き現在の状況を把握すると共に、思い・訴えを受け止めるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○状況に応じた支援が出来るようにアドバイスを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○一方の関係で支援するのではなく、利用者から学ぶ姿勢を忘れず信頼関係を大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○家族からの思いを伺いながら、職員の思いを伝え、一緒に本人を支えていくという協力関係を作っていくように努めている。		

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○電話・手紙・年賀状など、良い関係を継続出来るように支援している。	家族会や、手紙、メールを積極的に活用することで、一人ひとりが大切にしてきた馴染みの人との関係が継続出来るように努めている。また外出時に、自宅に立ち寄る等の支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○家事活動の機会に体験や思いを話していただき関わっている。外出・買物を一緒に行動する事により良好な関係を築いている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○転居先への面会、死去された際のお通夜又は葬儀への参列を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○担当者会議や会話などを通し暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人の普段の言動を観察、家族と情報交換しながら検討している。	何気ない日常会話や行動から、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。独自のアセスメントシートに加え、センター方式を活用し、また家族の協力を仰ぎながら、多角的視点で、困難な場合にも対応している。その細やかで丁寧な記録から、職員間で情報を共有し、より本人本位に検討していることがうかがえる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入所時にはセンター方式の用紙に家族に記入していただいている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○職員間で情報交換を行いながらバイタルチェックや活動、食事量等を通して変化がみられていないか把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○月1度のミーティング等、又適宜カンファレンスを行い、各利用者の状態、状況を話し合いその結果をふまえてケアマネが計画を作成している。必要に応じて家族と担当者会議を実施している。	本人や家族の言葉が忠実に記載された計画書、及び丁寧に分かりやすい記述の見られるカンファレンス記録から、職員や関係者が、本人本位の視点で、現状に即した計画書作成に努めていることがうかがえる。見直しについても、定期的、かつ必要に応じてなされており、家族や看護師等の出席も確認出来る。	

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○ケース記録の他ノートでの伝達、モニタリングのほか必要時(心身の変化)にはカンファレンスを行い見直しに努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○一人ひとりのペースに合わせたり、その日の天気により外出など利用者の状態を見ながらその都度対応を考え取組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○外出(買物、散歩、地区の行事見学)を行いながら残存能力を活用する事に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○従来からの本人、家族とかかりつけ医との関係を尊重し、受診を継続していただいている。状態が変化した場合には家族へ報告し主治医へ相談していただいている。発熱や食欲不振・便秘など体調不良時には家族へ報告、受診を通して医師へ相談を行っている。状態によって薬に関する内容が含まれる時には、看護師が直接相談し指示を受けている。認知症による精神症状等が目立ってきた際、家族と相談して専門医への受診を勧めている。	本人・家族の希望を重視し、かかりつけ医への受診支援を行っている。また本人の状態に応じて、家族と相談・話し合いを行いながら、専門医への受診を行い、本人が納得し、適切な医療を受けられるよう努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○看護師へ連絡・相談・報告を行い、連携を図っている。医療連携体制をとっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入院時は日常の情報を提供し、主治医や病院と連絡を密にとり、早期退院に向けて話し合いを行っている。(カンファレンス参加)		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○医療機関と連携を図り、事業所で出来る範囲での対応を行っている。	医療連携体制加算に係る指針の中で、看取りに関する指針を定めており、入居者と家族の希望に応じて、主治医の判断を仰ぎながら、話し合いを行い、可能な限りの対応を行う方針である。現状では、重度化した場合、同一法人運営の特別養護老人ホームへの入居を希望する方が多く、実際、申込み済である。	

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○緊急時のマニュアルを作成し、目のつくところに用意している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○避難訓練を実施している。消防所、地域の消防団の方々と共に夜間想定避難訓練を実施している。	事業所独自と、敷地内にある同一法人の施設全体で、年に2回、防災訓練を実施している。消防団の参加や、消防署の立会(内1回)も見られる。訓練の記録からは、具体的な反省点を挙げ、次に繋がるよう工夫している様子がうかがえる。また運営推進会議を通して、地域に協力を呼びかけたり、市主催の防災研修に参加する等、積極的に防災対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○尊敬の念を持ち、その方に応じた声掛けを各自、実践している。又、利用者の立場に立って考えプライバシーが守られるよう気をつけている。	一人ひとりの意向を大切に、自己決定の尊重や、選択肢の確保に努めている。また身だしなみや、羞恥心への配慮、言葉掛けについても、本人本位に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○出来るだけ1対1で話が出る時間を作り、本人の思いが伝えやすい場を作っている。選ぶことが難しくなってきた方へ2つの中からどちらがいいか尋ねたり工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一人ひとり体調やペースを見ながら休息をとったり、家事を手伝ってもらったりなどしている。どのように過ごしたいかなどは本人に聞いておらず、今後は本人に確認しながら一緒に一日の過ごし方を考えていきたい。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○出来るだけ自分で整容してもらえよう鏡の前に立っていただき、髪をとかしていただいている。月2回のお化粧品教室を通して楽しみとおしゃれに対する意識を持っていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○全利用者の参加は困難であるが、個々に出来る事を職員が把握しており、食事の準備、片付けに参加していただいている。秋刀魚や鯛のアラ炊き等在宅時と同じものを提供し、味覚や懐かしさを回想し、満足していただいている。月1~2回程個々の好みに応じて外食を行っている。	一人ひとりの好みや、その時々ニーズに応じて献立をアレンジし、食事提供を行っている。週に1回、「みんなで調理を行う日」を設けたり、入居者の要望に応じて、外食に出かけたり、鍋やバイキングランチを行う等、少しでも食事が楽しめるよう工夫している。また準備や片付け、食材の買物等についても、各自が出来る範囲で役割を担っている。	

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○食事・水分共に摂取量をチェックし記録している。食欲のない方、摂取量が少ない方へは、ご本人が食べ易い物、食べれる物を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○ご自身でできる方以外はりびングの洗面台に歯ブラシを置いて毎食後声掛けから、見守り、一部介助の方まで対応している。義歯装着者には外していただきブラッシングや夜間入れ歯洗浄剤にて除菌洗浄している。個々の歯ブラシ、コップも毎日漂白剤に漬けて洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○出来る限りトイレで排泄が出来るように誘導している。(必要に応じて排泄チェックを行っている)夜間も必要に応じて声掛け実施	一人ひとりの力や、習慣、その日の状態を踏まえ、排泄チェック表を、必要に応じて活用しながら、トイレ誘導を基本に、排泄の自立に向けた支援を行っている。排便の困難な方については、オリゴ糖や牛乳を使用する等の工夫を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○お茶・オヤツ・食事作りにオリゴ糖を使い便秘の改善をしたり、工夫している。 海草寒天ゼリーも提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「毎日入りたい」と希望のある方は、毎日入浴され、出来る限り本人、家族の希望を聞くようにしている。	基本的には、週に3回、午後に入浴を実施している。毎日の入浴を希望する方については、対応している。時にゆず湯にしたりと、少しでもくつろげ、ゆったりとした快適な時間が過ごせるよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○ケアプランに準じて休息の必要な方へはその都度休息を促している。その他の方に対しても活動の後や本人の様子を観察しながら休息を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○看護師からの申し送りカルテ等を職員が把握して理解に勤めている。 看護ノートを活用し、支持や報告を連携している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○それぞれの好きな事を職員が把握して趣味などが継続的に行えるように支援している。 四季折々の風物詩を直筆して戴いたり、外出にて季節感を醸しだしている。		

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○「買物に行きたい」と希望があればその都度出掛けられるようにしている。又、ご家族にも外出をお願いするなどして可能な限り外に出れるように努めている。	一人ひとりの希望に応じて、日常的に、近隣への散歩や買物等に出かける機会を設けている。またイルミネーション見学等、季節に応じたドライブ行事や、外食、隣接の福祉センターの行事参加等、普段は行けないような場所への外出支援にも努めている。	現状における課題として、「日中、テレビやビデオを長い時間観ていることがある」ことや、「車椅子の方の外出が少ない」ことを挙げているものの、その改善に努めようとする姿勢や、実際の取り組みが確認出来る。これを踏まえ、より質の高い介護・支援の観点から、この継続を期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○数名だが、ご自分でお財布を持ち、ご家族、職員と一緒に管理している。外出時には、ご自分で支払いされ出来る事を継続していただけるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○電話の希望がある方は電話される。FAの希望、本人の要望から携帯を所持している方も居られ、時折ご自分で電話をかけることもある。遠方のご家族には手紙を出されたり届いた手紙の返事を書かれたりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○不快感や混乱等をまねくような空間にしないように努めているが、生活感にはまだ乏しい面もあるかと感じる。 季節に応じたディスプレイ(利用者と制作したもの)をリビングに装飾している。	食堂兼リビングは、採光良く、清潔感がある。またテーブルやソファの配置も工夫され、ゆったりとした空間作りがなされている。季節の飾りが、暮らしに彩りを与えている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○居室でくつろぐ時間を大切にす為目隠しとして入口に暖簾などしてプライバシーの配慮に努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○使い慣れた物(タンス等)を持ち込まれていたり、冷蔵庫、テレビを設置されている方も居る。使い勝手が悪いと希望があれば家具を動かしその都度、模様替えをおこなう。	各居室には、使い慣れた調度品や冷蔵庫、カセットデッキ、テレビ等が持ち込まれており、一人ひとりの好みや趣味を反映した本人本位の空間作りがなされていることが確認出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○理解の出来なくなった方には目に止まる程度の張り紙をしたり、ボタンなどの横に説明を少し書いたり工夫しながら理解しやすいようにしている。必要に応じてスケジュール表等を作成している。		